

妹尾・福田地区 人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	南区第一地域(妹尾・福田地区)	令和6年2月5日	—

1 対象地区的現状

①地区内の耕地面積	355ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	213ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	154ha
i うち後継者未定(回答有)の農業者の耕作面積の合計	41ha
ii うち後継者について不明(回答無)の農業者の耕作面積の合計	86ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	18ha
(備考)	

2 対象地区的課題

回答者のうち65才以上の農業者は69%、また、75才以上の農業者は38%であり、今後、農業者の高齢化が進むと見込まれる。また、回答者のうち、65才以上で後継者がいない・未定の割合は66%で、その面積は回答者の耕作面積全体の34%にのぼるなど、後継者不足が懸念される。耕作放棄地にも苦慮しており、農家や地域で取り組むには課題が多い。耕作放棄地対策について、可能な範囲でより具体的な効果が上がる手法、体制づくりの検討が必要。

中心経営体が今後引き受ける意向のある耕作面積(18ha)は、回答のあった65才以上で後継者なし・未定の農業者の耕作面積(71ha)を下回っており、今後、耕作放棄地が増加することが懸念される。新たな受け手の掘り起こしが必要であり、担い手となる中心経営体の育成と併せ、周辺地域からの入り作などの拡大も検討していく必要がある。

農地が複数箇所に分散して農作業の効率が悪いことや、水管理、荒廃農地、条件不利農地の改善などが課題として挙げられる。今後、中心経営体への農地集約化を進め、飛び地解消などの効率化を図ることや畦の除去などを含め、圃場環境の整備などが求められる。

調査結果では、現時点での稲等の何らかの農地利用がある割合は90%程度となっているが、今後(概ね5年後)の農地利用計画では75%程度に留まる。相続したが農地の場所が不明、所有農地の面積が不明など、既に離農していると思われる者が一定数いる。また、地区内には市街化・宅地化や条件不利などの地理的要因により農地利用ができない箇所もある。農地利用前提だけではなく、作付困難な箇所をどう保全していくかなども含め、地域・集落単位での検討が必要。

農業を続けたいが、高齢で全ての作業をこなすことが難しく、生産コストも高いことから継続していくことに不安がある耕作者が一定数おり、JA等を中心とした新たな組織体制を構築して地域での作業を引き受けるなど、補完する仕組みづくりの検討が必要。農業を将来も継続できることが大切であり、次の世代へ引継いでいく仕組みづくり、特定農産物の産地化・ブランド化の支援など、中小規模の農家が継続できるような施策検討が必要。

市街化調整区域内で農振農用地であるが、転用による宅地化も進んでおり、隣接する耕作地では農作業に支障が出ているとの意見もある。また、将来は農地の売却・転用を希望・検討する者も一定数あり、多様な意向が混在している状況で将来的な農地利用の展望が描きにくい。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区内の中心経営体である認定農業者(個人・法人)は、後継者がいない・未定の農地利用を積極的に検討するなど、集約化の取り組みを推進する。

地区内の農業者に対して、農業委員会の広報等や様々な機会を活用し、農地集約の目的等の周知・啓発や、農地貸付・売買・転用などの情報提供を図り、担い手となる中心経営体への農地集約の推進とあわせ、周辺地域からの入り作なども平行して検討していく。

中心経営体は、現在分散している農地の集約化や新規中心経営体の面積増について、中心経営体同士での話し合いや意見交換会等の相互協議を行い、農地集約などについて効果的な手法等を協議・検討する。